

MIT交換留学 報告書

期間: 2024年8月～2025年1月

1. 留学準備

1.1 動機

高校生の頃から海外への興味は漠然とあったが、大学2年前期で初めて交換留学という制度を知ったくらいであまり真剣に考えてこなかった。単位互換ができて海外の大学で学べるのはとても魅力的だったし、MITで勉強できるのは憧れだった。交換留学を知ったのはちょうど進振りを考えていた頃で、このMITへの交換留学ができるのは限られた学科からだけだったので、機械系を選択した大きな理由となった。機械系に入ってから、せっかく交換留学を理由に選択したのを無駄にしないためにも、応募できるように頑張った。また2年年末に個人的にMITのキャンパスを訪れモチベーションを高めていた(?)。MITにきてからも動機について聞かれることも多かったが、正直明確な動機はなく”Why not?”って感じだった。英語力があるなら応募して損はないので、ぜひ挑戦してみたい。

1.2 英語

応募の際に一番の障壁となったのは英語力だった。2年夏頃から冬にかけて3回TOEFLを受けて最終的には99点と100点に届かなかったが、MyBestで何とか100点に達することができた。英語の基準点に達する人が少なく、応募できる人は限られているので、もち

ろん年にも寄りますが、英語力さえ突破すれば行ける可能性はかなり高いです。成績があまりにも悪いと落とされてしまうかもしれませんが。

留学中に困ったのはスピーキング力と碎けた会話のリスニングでしたが、これといった対策は分かりませんし留学を終えた今でも難しいです。とりあえず英語にたくさん触れることと、留学が決まってからも油断せず、3Sの時期にもきちんと英語の勉強をする(しませんでした...)ということでしょうか。

1.3 手続き

留学が正式に決定するまで、応募書類を出したりアドバイザー教員に推薦状をお願いしたり細々としたことがたくさんあった。特にTOEFLをギリギリまで受けていたこともあって2Aのテスト期は大変だった。

2,3月はいつ正式に決まるのだろうとウズウズしていたので、参考までに主な日付はこんな感じでした。面接はありませんでした。

3/4 東大の学内選考に通った旨のメール

3/5 MITの交換留学担当の人からのメール

4/10 MITからの受け入れ状のメール

4月から渡航前にかけては、MITメールアドレスの作成、MIT公式サイトに個人情報などの入力、東大から一緒に行く人たちとの顔合わせ、MITから交換留学に来ている人たちとの顔合わせ、ワクチン接種、学科との単位互換についての相談、保険の申請、ビザの取得、MITに行く各国の人たちとの顔合わせ、寮の選択、ミールプランの選択などたくさんやることはあった。MITの交換留学担当の人が定期的にリマインドメールをくれたり、親身に相談に乗ってくれたりするのでそんなに困ることはなかった。個人的に銀行の残高証明書を出すのが大変で、一度間違ったものを出してしまったこともあって期限を過ぎてしまった。

やっておけば良かったこととしては東大の研究室事情を知っておくことと日本文化の履修です。研究室については後述のUROPに入るにあたって、研究室や研究についての知識不足でやや困ったことがあったので、東大の研究室を覗いてみて雰囲気を感じておけば良かったと思います。またちょっとの時間でどうにかなるものではないですが、東大で1つでも研究実績があるとUROPの応募がもっと楽になっただろうなと思います。そして日本文化についてですが、直前に京都に行ったり広島に行ったりして歴史系を多少学び、日本を旅したいという外国人に対してアドバイスができたのは良かったですが、多くの外国人が日本と聞いて思い浮かべるアニメに対しての知識が壊滅的だったのは悔いが残るところです。最近のものだけでなく、黒子のバスケやハイキューといった王道ものも見たことがなかったので、特に日本語を学んでいるMIT生はアニメきっかけで入った人が大多数なので、アニメを見といて損はなかったなと思います。留学に行くということは文化を学ぶというだけでなく、文化を伝えることだと思っているので、自分が日本の何に誇りを感じているのか、何を伝えたいのかを留学前に整理していくと良いと思います。

2. 生活

2.1 寮

学部生の寮の一つBaker House(以下Baker)の一人部屋に住んでいました。他国を含めた他の交換留学生の多くがBakerに住んでいて、多く交流ができた。寮の希望フォーム

みたいなものがあるが、あまり考慮されないと思うので時間かけなくてよかった。後述のミールプランに入るか入らないかが唯一の選択だったと思います。ただ学期が始まって1週間は隣人トラブルや諸々の理由から寮を帰れるので、そんなに気にしなくていいと思います。Bakerは比較的綺麗な寮であったと思いますが、それでも部屋の中に入り込むゴキブリ、風呂場に大量発生するゴキブリ、共用スペースを走り回るネズミに遭遇したりしました。頑張って退治しましょう。

また各階に共有スペースがあり、勉強をしたりカードゲームをしたりしました。夜10時以降は静かにするようになっていますが、深夜1時くらいまで多少騒がしかったです。特に自分は共有スペースの前の部屋だったこともあり、少なからずストレスでした。また1週間に1回Study Breakという名のもとで同じ階の人と交流する機会があったが、最初の数回予定が入って行けず、それ以降も足が遠のいてしまった。元々知っている人と近くに住んでいて、さらに仲良くということはあっても、近くに住んでいるからといって仲良くなることはあまりなかったのが少し残念だった。

寮の地下にはランドリー(洗濯乾燥それぞれ\$1.25)、ジム、勉強スペース、1階には食堂があり、基本的に生活のほとんどがこの寮で完結しました。自分は使いませんでしたが、音楽ルーム、ダンススタジオみたいなものもありました。

McCormickの地下にあるGame Roomにはビリヤード、卓球台や多くのボードゲームがあり、こちらも愛用していた。食堂がある寮には入ることができ見学できたので、色々な寮の違いを見るのは楽しかった。各寮の文化の違いはあまり感じることはできなかった。皮肉にもあまり文化を感じなかったというのが、比較的個人主義と言われるBakerの文化を感じているのかもしれない。シングル部屋の多さも由来していると思います。

1/3まで自分の部屋に滞在することができました。ビザの関係でアメリカに滞在できるのが1/19までだったので、それまでは同じBakerの友達の部屋に住んでいました。同じ寮の一人部屋でも広さ、備え付けの家具、暖房の効き具合が異なります。

左2つ: 部屋 右: 共有スペース



2.2 食事

ミールプランの一番多いプランAny21(1週間に21食食べられる)を購入しました。先代の方達で少ないミールプランを勧めていた人が多かったのが理解できないくらいしっかりと食べました。フリーフードは確かに至る所にあるものの、ピザやドーナツなどジャンクフードばかりでした。しかしbuffestailで持ち帰りに寛容なので、うまく工夫すれば少なくとも大丈夫だと思います。また平日の昼間や休日の朝はNew Maseehという寮でしか食べられないので、少なからず食事のために外出する機会があり、特に冬の寒い時はきつかったです。食事のクオリティは当然日本には及ばないですが、アメリカであることを考えるといい方なのではないかと思います。月曜日のNew Maseehはラーメン、金曜日のNew Maseehはパスタは好きでした。また常設メニューであるSimmonsのチキンだしヌー

ドル、BakerのStirFryが安定に美味しかったです。メニューもそうですが、席の雰囲気も各ダイニングで異なるので一度全ダイニング(全6つ)に足を運ぶことをお勧めします。感謝祭の時には七面鳥も出されました。

またミールプランに入るか入らないかが寮の選択で一番重要な選択ですが、これも最初の1週間決める猶予が与えられます。最初の1週間は食堂が無料で利用でき、ミールプランの変更もできるので、これもまたそんなに悩む必要はないです。

ダイニングが閉まる12/20以降は軽い自炊生活をしていました。他の日本人留学生から電子レンジで炊ける炊飯器のようなものを借りて米を炊いていました(とても助かりました)。韓国系スーパーH Martや日本スーパーMaruichiでは日本のスナックや食料が手に入ります。値段はもちろん高いです。

街中にあるレストランでも度々食べましたが、チップもあり普通の店でも\$20、少しいい店だと\$30はかかりました。また日本食レストランもあり、結構美味しい店もありました。

自分は何も意識せず爆食した結果留学前後で7kg増えました...

Baker Houseのランチ

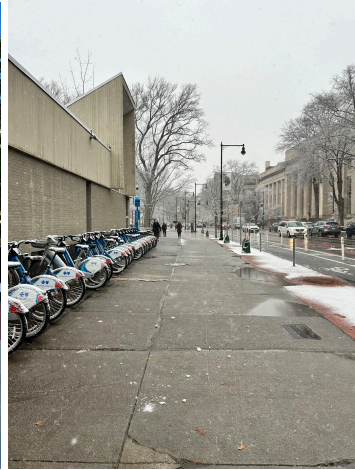


2.3 移動

Bakerはキャンパス内にある寮で授業の行われるクラスまで徒歩5分程度と絶好の立地でした。キャンパスは横長のため、奥の方に行く時にはもっと時間がかかりますが、機械系の授業は寮に近い建物で行われます。基本的にキャンパス内の移動は徒歩でしたが、少し街に出たり買い物に行く時はBlueBikeという自転車を使っていました。1回\$3で30分までが基本ですが、MIT生は\$50で1年間45分間乗り放題という割引を受けられます。ずっとキャンパスにいるという人以外は購入をオススメします。電車は臭いし遅い上、道路には自転車専用レーンがあるので、自転車移動の方が快適です。最寄りのスーパーまでも徒歩15分くらいかかりたりするので、自転車があるととても便利です。累計で150回近く利用しました。電車の利用は数回程度しかありません(主に空港に行く時)。ただ冬はとても寒い、かつ雪も降るので気をつけましょう。後日本よりもルールが厳しく、自転車レーンを使うことや手信号、2段階左折などがあるので、ルールはきちんと確認しましょう。

また車に関しては一度後述のシックスフラッグスに行くために友達のレンタカーに乗せてもらったくらいですが、運転できると行動範囲が広がると思います。

左: 自転車レーン 中: 最寄りのステーションの様子
右: 一時期全てのステーションを制覇しようという試みがありました、挫折しました



2.4 気候

MITの唯一と言っているデメリットは寒さでしょうか。12月はピークではないですが、 -10°C に達する日もあります。また川沿いという影響もあってか、かなり風が強いです。雪が降り積もる日もあります。さらに冷え込むとチャールズ川が凍ります。なので外を歩く時は全力の防寒対策をしなくてはならないですが、建物内は暖かい上MITの各建物は繋がっているため、インナーで温めるよりも脱ぎ着しやすいアウターを着ていました。またBaker内もとても暖かく冬でも部屋着は半袖半ズボンでした。むしろ暑すぎるくらい(セントラルヒーティングなのであまり調整できない)なので、冬でも少し窓を開けて寝ていました。ただ部屋のヒーターの性能にかなり差がありそうです。むしろ部屋の中は、8,9月にクーラーがない事による蒸し暑さが大変で、小型扇風機を買って使っていました。



2.5 キャンパスの様子

最初の1週間は授業のないオリエンテーション週と設定されていて、様々なイベントが行われています。日付を跨ぐイベントも開催されていて、みんなの元気に圧倒された記憶があります。ニューイングランド水族館を貸切して謎解きイベントをやるみたいな大規模イベントもありました。またこの時期に寮で行われるイベント(通称REX)では寮Tシャツを

ゲットできます。テント列のような各クラブや各学部の勧誘イベントも行われ、大量のMITグッズをゲットできます。フリーTシャツも多く配られ累計で10枚くらい貰いました。またハロウィンの時期はキャンパス、街ともに盛り上がりを見せ、仮装している人をそこら中でみた。ハロウィン当日はフラットで行われたパーティーに参加した。キャンパス内の寮の一つではありますが、お酒もでてかなりカオスなパーティーでした。一方感謝祭やクリスマスは家族で祝うために実家に帰る人も多く、キャンパスが静まり返る時期だった。

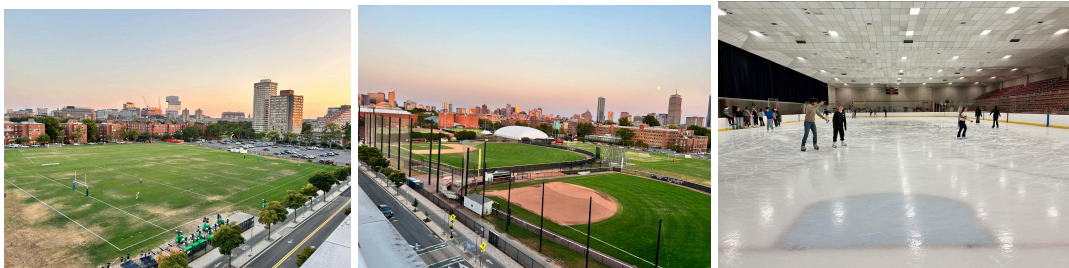
左:グラウンドで行われた一大REX 中:クラブ勧誘会 右:水族館で謎解きに励むMIT生



また全体的な設備として個人的に東大と比べて特別優れているとは思わなかった。工科系大学という事もあるが、図書館は6つのみで蔵書数は東大の3分の1程度である。一方ハーバードやボストン公共図書館には東大の2倍近い蔵書数があり圧倒的であった。キャンパスの面積は寮を含めて本郷キャンパスと同程度である。オックスフォードからきた交換留学生はマテリアルの実験をするためにきており、そういった特別な研究設備では優れているかもしれない。

Z centerという運動系施設がMIT生は無料で使え愛用していた。プール、ジム、室内コート、サウナなどありとあらゆるものがあつた。基本的にVarsity(部活)の人が優先でそれ以外の人(rec)の人が空いた場所や空いた時間に使うという仕組み。また屋外競技場もたくさんある。水着以外の器具やボールなどは無料でレンタルできる。冬にはアイスリンクもオープンする。スケート靴は1回のレンタルで5ドルした。

ローイング、セーリング、サッカー、ランニング、アイススケート、テニス、バスケ、水泳、卓球をクラブの練習に参加したり友達とやったりした。特にサッカーは寮のチームに参加して、試合もした。チームの単位は寮、専攻、国などチームによって様々だった。スペインチームが圧倒的な強さを誇り我々がチームは惨敗した。



2.6 街の様子

電車の無賃乗車、万引き、ホームレスの物乞いなど日本と異なる様子を目撃することはありましたが、特に自分の身に危険を感じた瞬間はありませんでした。キャンパス内は基本的に学生しかいないので、深夜でも安心して出歩けました。キャンパス外を深夜に出歩いたのはハロウィンと大晦日の時くらいでしたが、特に危険はありませんでした。しかし

私自身が友達と凍った川に石を投げて遊んでいたら、近所の人に通報されて職質を受けてしまいました...

また無印良品とユニクロがあるなど、日本人にとってとても過ごしやすいと思います。アジア人差別なども特に感じたことはありませんでした。

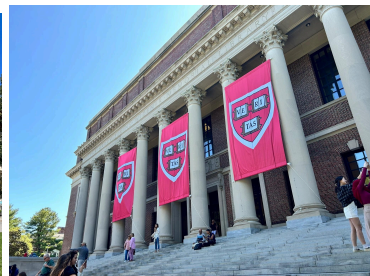
ボストンにはたくさんの博物館があり、学生割引(またはMIT生は無料)があるところも多い。おそらく大小合わせて20個程度行きましたが、オススメはボストン美術館(Museum of Fine Arts)とボストン科学博物館(Museum of Science)です。またBoston Common、マサチューセッツ州会議事堂、ボストン公共図書館、近所の大学のキャンパス(ノースイースタン、ボストン大学、ハーバード)にも訪れました。ハーバードはMITまたは東大の学生証で図書館のアクセスカードを作ることができます。ハーバードのキャンパス、図書館の大きさには度肝を抜かれます。また秋の紅葉はとても綺麗でした。自分は行きませんでした。秋には郊外でりんご狩りが有名みたいです。

スポーツに関してはFenway Parkで野球の試合を見たり(学生は9ドルで見られる)、ボストン大学でアイスホッケーの試合を見たりもした。MITは部活に入っている人はもちろんいますが、全体的にスポーツの熱は低めでした(友達に聞いた話ではワールドカップも全然盛り上がりせず、唯一スーパーボウルは盛り上がるみたいです)。見たいと思っていたバスケットとアメフトはタイミングが合わず見られなかった。

また少し離れたところにあるシックスフラッグス、Salem、Spectacle Islandにも訪れました。シックスフラッグスは北米各地にある遊園地で、少ない待ち時間で絶叫アトラクションに乗れて楽しかった。Salemは魔女の街とも言われるが、特にコメントすることはない。約20マイルの道のりを先述のブルーバイクで挑み、なかなかハードな旅だった。Spectacle Islandは港から船で行く離れ島で、ビーチが魅力的だった。

自分は木金が授業なかったこともあり、1週間に1回はキャンパスを離れ観光していて、いいリフレッシュの機会になった。勉強で忙しいとは思いますが、そうしたリフレッシュの機会を作り、ボストンを観光することをお勧めします。

左上:ボストン科学博物館 中上:ボストン美術館 右上:ワイドナー図書館
左下:フェンウェイパーク 中下:アガニスアリーナ 右下:シックスフラッグス



また木金が授業ないことを利用して、一度普通の週末にラスベガスとロサンゼルスにいった。4泊6日でした。グランドキャニオンに行ったり、ドジャースのポストシーズンの試合を見たりした。

帰国の際にはシアトルでの乗り換え便を予約して1泊した。

ボストン以外の都市も見ることによってアメリカの解像度が高まったような気がする。

3. 学習

2.155 AI & ML for Engineering Design 12 units A-

2.723A Design Innovation for Engineer 3 units B+

2.723B Design Thinking and Innovation Project 3 units B

2.74 Bio-inspired Robotics 12 units A

2.UR Undergraduate Research Opportunity Project 10 units P(合否のみ)

6.2020 Electronics Project Laboratory 6 units A

合計 46 units



時間割。UROPは含めず

3.1 2.155

AI&MLの幅広いトピックを扱った。毎週コードをいじって、改良したり感想を書いたりする課題があった。その他ある週に指定されたトピックについて1分程度クラスの前でプレゼンしたり、2回やや重めの課題が出た。最終プロジェクトは自分の好きなテーマについてと自由度がかなり高め。全体的にChatGPTを多用した。話は変わるが、デバッグングについてはCS専攻の人でもChatGPTなしではできない。後半の課題は高性能のGPUを要求されることもあり、Google Colab Pro+の課金用の予算があった。

3.2 2.723

イノベーションを起こす方法論みたいな授業。扱っている内容は最も簡単ではあったが、ディスカッション主体の授業であったため、精神的負担は大きかった。数式は一切登場せず、どのようにして固定観念を打ち破るのかのようなテーマ。プレゼンテーションの極意

みたいなのも学んだ。後半はチームを組んで、新たな提案をする。理系よりの授業ではなく、最も英語力を要求されたので、Bをとってしまったのも納得である。

3.3 2.74

ロボットの授業。前半はプロジェクトに必要なハードウェアのセッティングをラボで習ったり、基本的な力学、ヤコビ行列などを講義で習ったりした。前半のラボが個人的には一番の鬼門で3時間で終わるはずのものに8時間くらいかかる週もあり、絶望していた。後半はチームを組んでプロジェクトで自由な感じになる。後半の授業は直接関係あることではなく、毎回ゲストスピーカーを招いた講演会のようなものだった。最終プロジェクトは授業内のプレゼンに加えて、授業外の人に向けたポスターセッション＋ロボット実演の機会があった。

3.4 2.UR

通称UROP。MIT Sports Labに所属して運動解析とデータの相関性について研究した。オンラインだった上に直属の教授としか交流がなかったため、あまりラボの全体像についてはわからなかった。ありがたいことに1月下旬現在も論文執筆中で関係は続いています。

UROP全体に関して受け入れ先の研究室を見つけるのが難しかった。交換留学で1学期間しかいない上に研究実績がないと、渋られてしまう事もあった。それでもメールをたくさん送ったりアドバイザーの先生に教授宛にメールを出してもらうことで10月中旬にこのラボと巡り合った。

このUROPは12 units分履修登録したが、1週間に12時間働いているとみなしてもらえず、10 unitsの認定になった。最低限ギリギリの36 unitsの履修をしようとしている人は気をつけましょう。

3.5 6.2020

回路を作る授業。前週に宿題で理論を学んで、翌週に実際に回路を作って検証するという流れ。やるべきことがハッキリしていて難易度もそこまで高くなかった。夜7時から10時までという遅い時間だった。3時間が用意されているが、実際には早く終わって帰ることも多かった。

コメント

全体を通し知識をたくさん学ぶというよりも、その知識を使いこなす・生かすということに重きを置いているように感じた。課題をたくさんやっているうちに自然と身につくという感じでしょうか。また期末がある科目は少なく、最終課題がプレゼンやポスター発表であることが多かったです。その発表は聴講者を招いたり、廊下でやったりするなど、様々な人に説明することを重視していると思った。また当然他学部を含めた他授業の発表を聞く事もでき、勉強になった。寮に住んでいる事も相まって、他学科の人との交流が多くあり、それが何らかの形で生きてくる気がした。

全体的な負担感や勉強量は事前に恐れていたほどではなかったし、東大にいる時と比べてそんなに変わらなかったと思う。自分のスケジュールだと木金が全休になるという信

じられないスケジュールだったが、4日の休日のうち1日は完全フリーになる日を作る余裕はあった。睡眠時間も毎日8時間くらいはとっていたと思う。

ただ平均値で言えばMITの生徒の方が勉強をしている。また個人的に感じた違いとしてMITでバイトで忙しいというのは聞いたことがない。バイトをしている人でも学内のバイト（事務手伝いや試験監督、寮の受付など）だし通学時間もないし、リソースのほとんどを勉強に費やしていた。

またn時間目といった定まった枠はなく、各授業が好きな時間に授業をやっている。昼休みが取れないこともあるし、授業が30分だけ被って取れないこともある。また日付を跨ぐ授業もあるようだ。

またアメリカ人はみんな積極的で質問をバンバンする印象があったが、これは部分的に誤りであった。確かに授業中に積極的に質問をして教授と10分程度話すような生徒がいたが、全体の2割程度でその多くが院生であったように感じた。

また成績について述べている報告書がなかったので、恥を忍んで自分の成績を交換しようと思う。授業数が少ないのでなんとも言えないが、東大で優を取るのとAを取るのと同じくらいのレベル感だと思った。ハーバードなどはGPAインフレが進んでいて多くの人がオールAを獲得する中、MITはGPAデフレが進んでいるみたいです。平均GPAが4.0とされている中で4.8を取れたことは自身になった。

また履修についてはかなり頭を悩ませました。7月頃までちゃんとしたシラバスが公開されず、取りたいクラスが開講されるかも分からないし、取りたい授業の時間が被るかもしれないという状況でした。役に立ったサイトをいくつか紹介します。

MITの公式シラバス。アーカイブが1年分しか残ってない。

<https://student.mit.edu/catalog/archive/fall/index.cgi>

MITの有志が作っている過去3年分くらいの時間割がわかるサイト。

<https://hydrant.mit.edu/>

MITの公式逆評定。各授業の評価や重さについて一通り知ることができる。

<https://eduapps.mit.edu/ose-rpt/>

また3Aで留学して留年を避ける場合には、東大の必修の内容をカバーするように履修しなければならず、この縛りがなかなかきついものがあった。さらに単位互換のレートはMITの12 unitsにつき東大4単位とかなり悪い。こんなに頑張ったのに15単位しか獲得できず、春休みの集中講義で単位数を稼ぐ予定です。

また4Aで留学するのも決して無理ではないと思います。東工大から来た子は4年生でしたし、インペリアルから来ている4年生はオンラインでマスタープロジェクトをやりながら普通にMITの授業を受けていました（イギリスでは4年で修士まで取れることが多い）。秋ごろになるとみんな大学院出願資料を作り出し、みんなでStatement of Purposeの添削をし合っている様子も多々見受けられました。結果は分かりませんが、4年生でくる場合そういった中で大学院の出願もできるのも強みだと思います。交換留学中に知り合った教授から推薦状を書いてもらっている人もいます。

この授業は何年生向けのようなものはありません。prereqを参考にレベル感がわかります。また当然MITのprereqの条件は満たせないと思いますが、東大で似たような授業をとっていたことを説明すれば許可してもらえます。また院生と同じ授業を受けることもあり（院生はやや課題の量が多かったりする）、当然そのようなクラスのレベルは高くなります。

機械系の一番有名なクラスは2.009。6色のチームに分かれ(個人的には2色足りないと思う)、与えられたテーマのプロダクトを制作するという授業。聞いた話によると各チームの予算は\$10K。最終発表はMITで一番立派な講堂のKresge Auditoriumで行われ、他学科の人も注目する。この授業のことを知ったのは履修登録後だった。プチ後悔としては、早い段階で現地生にもっと授業のことを聞いておけばよかったと思っている。

4. その他

費用

ミールプラン	¥585,005 (\$3608.25)
寮代	¥1,186,339 (\$7379.00)
MIT保険代	¥243,357 (\$1501.00)
東大保険代	¥53,710
SEVIS	¥35,349 (\$220)
VISA	¥29,600
ワクチン	¥53,000
航空券	¥360,440(概算)
交通費	¥25,000
雑費	¥100,000
計	¥2,671,800

メインの出費としてはこんな形です。年々インフレしていく+通貨のレートもあるので、上下するとは思いますが。7月末にミールプラン、寮代、MIT保険代をまとめて支払う必要があり、その時のレートは1ドル160円超と一番高い時期に当たってしまいました(泣)
その他旅費が¥250,000、プログラム終了後の3週間弱の生活費が¥85,000くらいでした。奨学金としてJASSOさんから8万円/月×4をいただいていた。東大の国際交流チームから紹介してもらい、6月ごろからの手続きでも間に合った。奨学金をもらうにはMITの渡航が決まる前からしっかりと動く必要がある。

就活イベント

学部卒で就職するかに関わらずボスカリをはじめとしたキャリアイベントにも積極的に足を運ぶといいと思います。MITでも学科毎にキャリアイベントが開催されたり、各企業のイベントが開かれます。MIT学生は学部卒で半分くらい就職するようで、こういった場が大きな手助けになっているようだ。そういったアメリカの会社や就活の様子を垣間見

れてよかったです。しかし交換留学を抜きにしても、インターナショナル学生はアメリカ人と比べてビザの関係で選択肢が狭まってしまうことは事実でしょう。

ボスキャリが一番フォーマルで大規模なイベントでした。その期間中はボストン街のみならずMITキャンパス内でも日本語を聞くことが多かったです。99%以上の人がリクルートスーツで、スーツを持っていらず普通にTシャツでいった私は惨めな思いをしました。それでもフラッと立ち寄った面接3社全て次のステップに進めたので、堂々としていれば服装は関係ないと思います。またこのイベントのために海外から来る人も多く、東大の知り合いにバツリあったりしてそれだけでもいいイベントでした。

多様性

国籍、ジェンダー、バックグラウンドがやはり様々でした。軍隊出身者、飛び級した人など同じ学部生でも年齢差は10歳程度あったと思います。

またパーティ、イベントなどでハーバード、ノースイースタンといった同じボストンの大学の人に出会うのはもちろんのこと、コロンビアやブラウンといった少し離れた大学からも来ている人がいて何人かと知り合えました。こういった幅広い交流はアメリカの大学の良さなのかと思います。

5.最後に

事前に自分がすると思っていたよりも実際の成長は小さく、自分はMITで何も成し遂げていないと落ち込むことが多々あった。1学期間の留学で英語力や賢さが爆発的に成長するわけではなかったが、世界最高峰のMITで学んだ経験は間違いなく自分の糧となると思う。海外の地でなんとか生きていけるという自信がついたので、来年海外の大学院に出願しようと思っている。このMITでの体験が将来の第一歩となったと言えるようにこれから頑張っていきたい。以上思いついたことを列挙しただけの報告書となってしまったが、後輩の皆さんの役に立てれば幸いです。最後にこの留学をするにあたって、工学部留学チームや機械系の方々、金銭的な支援をしてくれた親に感謝の気持ちを送りたいと思います。ありがとうございました。

